

**「新型コロナウイルスは空気感染する恐れがある」、
と米国疾病管理予防センター（CDC）が認める。**

ニューヨークタイムス記者 Roni Caryn Rabin と Emily Anthes、2021 年 5 月 7 日

連邦保健当局は金曜日（2021 年 5 月 7 日）、新型コロナウイルスの感染経路に関する一般ガイダンスを更新し、その中で、感染は非常に微細な呼吸器飛沫とエアゾール粒子を吸引することによって、また拡散された飛沫と接触して、あるいは汚れた手で自分の口や鼻、目に触れることによって感染が起こるとした。

CDC はここで、感染した人から 6 フィート以上離れていても空気中のウイルスを吸引することができるとはっきり（大きく太文字にして）述べている。オンラインで掲載された今回の声明は、ほとんどの感染は「空気感染ではなく密接な接触」において起こる、というこれまでの CDC の見解をひっくり返すものである。

昨年パンデミックが起きてから、感染症の専門家は何カ月にもわたって、CDC と WHO（世界保健機関）は新型コロナウイルスが小さい、空中の粒子について空中を移動することを強く示唆する研究結果を見逃していると警告していた。一部の科学者は金曜日、曖昧であると批判し、また空気感染のニュアンスを必ずしも捉えていない「密接な接触」という用語を CDC が除却したことを歓迎した。

CDC はやっと、最新の科学的エビデンスに追いつき、いくらか問題のある古い用語を取り除いた、とバージニア大学の空気感染の専門家、リンジー・マーは言っている。

これは職場において考えられる危険を考慮して、米国労働安全衛生庁(OSHA)は従業員のための労働基準を改定しなければならないということを明確に示唆するものである。

「彼らはエアロゾルについて多くは語らず、飛沫により注目していた」、とジョージ・ワシントン大学公衆衛生大学院の疫学者、またオバマ政権時の OSHA のヘッド、デイビッド・ミカエルは言っている。

彼らは、エアロゾル・ウイルスへの曝露の予防に関する CDC の勧告を未だゆるいと懸念を表明している。

この新事実は室内環境、特に作業場に対して重要な意義がある、とミカエル博士は言う。ウイルスを運んでいる粒子は、「その浮遊性の性質を何時間も維持する」し、「換気が十分でない部屋に蓄積する」。

「近ければもっと曝露されるが、離れていてもリスクは存在するし、またそれらの粒子は空中に留まる」、とミカエル博士は言う。

メリーランド大学のエアロゾル科学者・ドナルド・ミルトンも同様に、米司法省は作業場を安全に保つために、もっと良いガイドラインを提示すべきであると言う。

「長時間にわたって他人と接触しなければならない人たちに対する性能の良い人工呼吸器にもっと関心を寄せる必要がある」、とミルトン博士は言う。「危険にさらされているところに押し込められるとしても、外科用マスクは、食肉包装工場において他の大勢の人たちと直ぐ近くで一日中いるとすれば、十分な予防対策にはなりえないだろう。」

医療従事者やバスの運転手、その他の労働者もまた人工呼吸器が必要となるかもしれない、マイケル博士は言う。さらに彼は続ける。小売店の客はお互いに距離を維持し、マスクを着用すべきである。さらにこれらの環境でも効率の良い換気は最も重要である。

「新型コロナウイルス感染症の伝播」というタイトルの CDC ウェブサイトの改定版では、人びとが遠く離れている時にそのウイルスを吸引することは「稀な」ことである、と述べているとマー博士は指摘している。しかし、その声明は「誤解を招く恐れがあるばかりか有害であるかもしれない」、とマー博士。

「換気の悪い環境にいれば、ウイルスは空気中に増えて、そして部屋にいるすべての人たちが曝露する。」